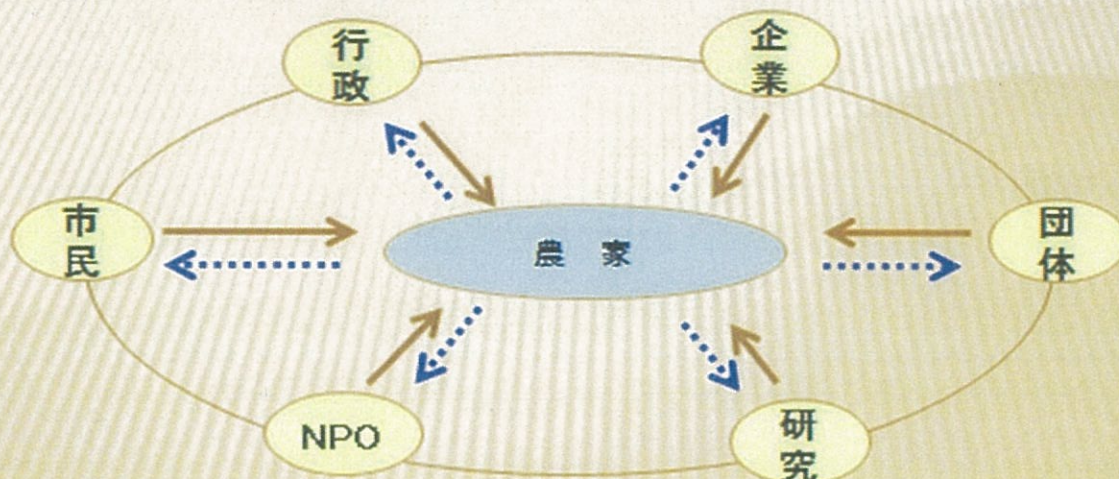


6 対策継続のための連携モデル



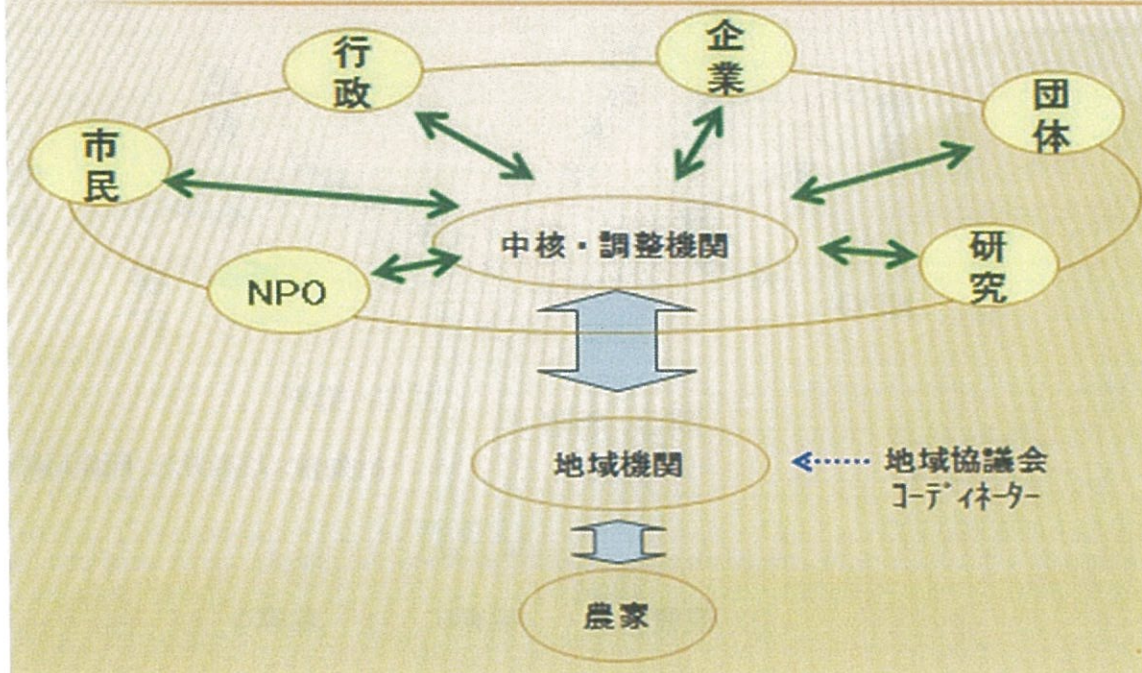
＊支援組織に対して、継続的に対価を返して行くことが、持続的対策の条件となる。

※10

スライド10

土壌流出防止対策を農家に取り組んでもらうには、様々な関係機関の連携と協力で達成できると考え、示したものです。
真ん中に農家がいる、それぞれがお互いに働きかけ、お互いにメリットがある関係が有効だと考えています。
こういう連携モデルづくりをしていきたいと考えています。

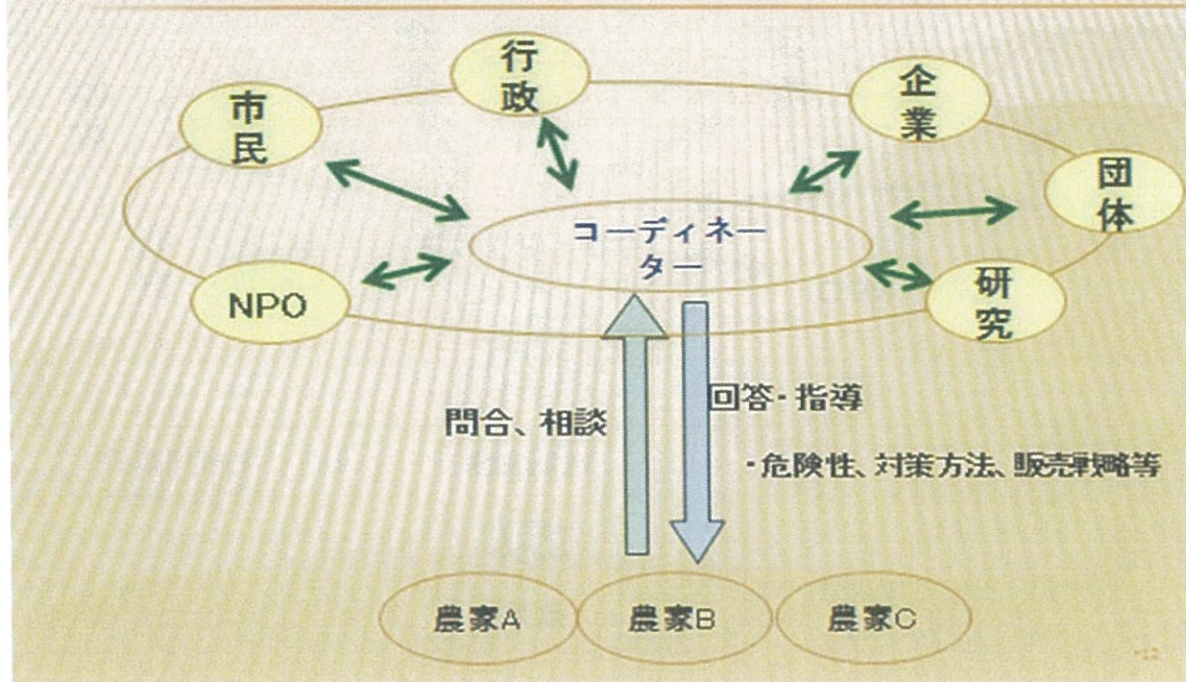
6 対策実施のための連携（広域モデル）



スライド11

地域レベルの体制ができた段階で、将来的に県レベルでの組織づくりを行っていきたいと考えています。
地域レベルでは難しい、大企業との連携などの広域モデルで取り組んでいく仕組みになります。

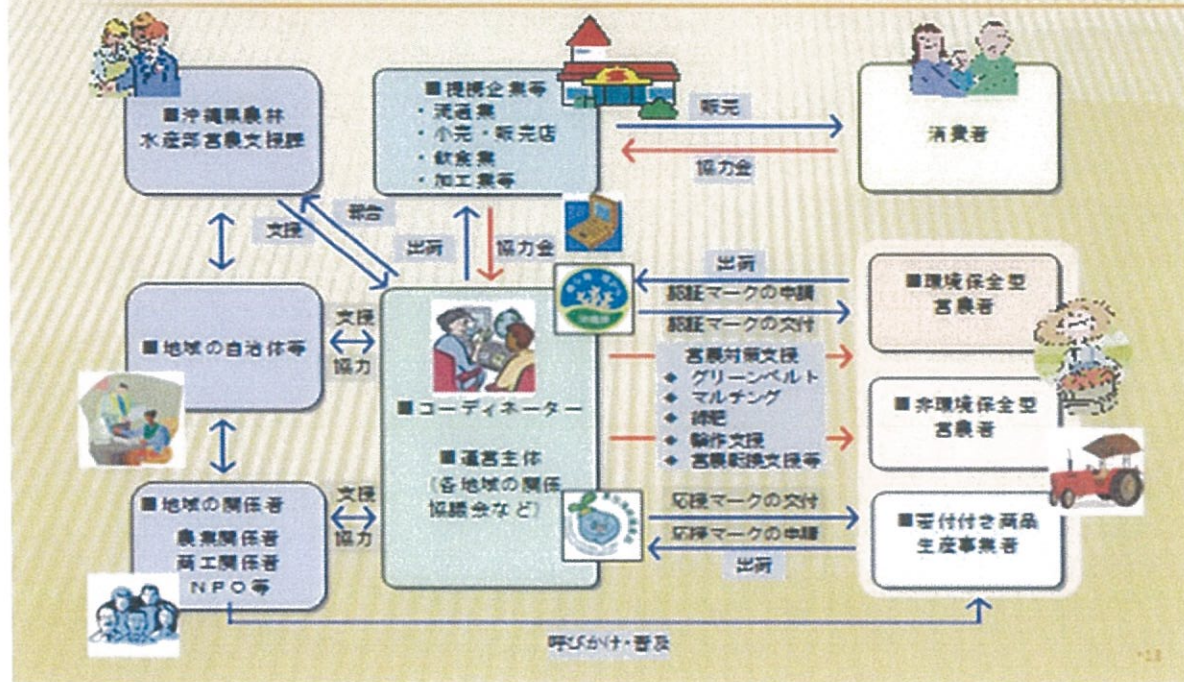
6 対策実施のための連携（地域モデル）



スライド12

真ん中に農家さんではなく、コーディネーターを置いて農家の代わりに様々の支援機関との調整を図るモデルです。
 コーディネーターを通じて、農家さんを支援するモデルです。
 企業等や農家にも、メリットがある仕組みです。

7 営農支援課の取り組み



スライド13

県営農支援課での事業で、取り組んでいこうとしている仕組みです。
 これはコーディネーターを置くことで、地域の現状を把握し、問題点や改善点を抽出していきます。
 コーディネーターが、農家さんの相談に応じて、土壌流出対策資材の提供を行っていくものです。
 地域にあった状況があるので、相談しながら行っていく役割があります。
 コーディネーターは、その他に企業との連携や啓発活動などを行います。
 自立的・継続的に土壌流出防止対策を行っていくために、地域レベルで取り組める体制づくりを目指しています。